

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5400m付近で-33℃以下の寒気を伴うトラフに対応する低気圧が、日本海西部をゆっくり東南東進。山陰沖で発雷。
- ② 低気圧が関東の東をゆっくり東進。近傍で雷を検知。
- ③ 500hPa 5580m付近で-27℃以下の寒気を伴うトラフが黄海付近を東南東進。
- ④ 北日本付近は気圧の谷となっており、北日本では3時間で3cm前後の降雪を観測。
- ⑤ 高気圧が華北にあって、南東へ移動。大陸からの寒気の吹き出しに対応して高気圧が東シナ



主要じょう乱解説図

海付近に張り出しており、南縁の東シナ海では気圧の傾きが大きくなってきている。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①③の上層の寒気を伴う2つのトラフは、9日夜から10日にかけて西～東日本を通過する。1項①の低気圧は、9日夜には若狭湾付近に進み、その後陸上へ進んで不明瞭となる。また、1項②の低気圧は、10～11日は上層トラフと対応して前線を伴い発達しながら日本の東を東北東～北へ進む。低気圧に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。東～西日本では10日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ② 2項①の若狭湾付近へ進む低気圧やトラフの通過に伴って、北～西日本には850hPaで-6℃以下の寒気が流れ込む。また、10日朝までに、2項①の日本の東の低気圧から東海道沖付近に気圧の谷がのびてシアーラインが顕在化する。低気圧やトラフ、1項④の気圧の谷、下層寒気の影響で、雪が降り大雪となる所もある。特に関東地方では、関東の東の低気圧からシアーラインに向かう東よりの風で下層寒気が流れ込むため、普段雪の少ない平地でも降雪となる所があることに留意。関東地方では10日は、大雪による交通障害に注意・警戒し、北～西日本では、大雪や着雪、なだれに注意。
- ③ 2項①の低気圧の影響で強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。西日本では10日にかけて、東日本では10～11日は、北日本では11日は、強風や高波に注意。
- ④ 1項⑤の高気圧は、10日にかけて華中を通して東シナ海に中心を移す。高気圧の南縁では北よりの強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。南西諸島では10日にかけて、強風や高波に注意。
- ⑤ 10日夜は、東シナ海付近と伊豆諸島付近は気圧の谷となる。発雷の可能性もあるので留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(18時からの24時間)：北海道・中国20、東北・北陸・近畿15、関東甲信・東海10cm。
- ③ 波浪(明日まで)：沖縄4、関東・伊豆諸島・中国・九州北部3m。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。